

UBS 豪ドル・ ボンド・インカム

ケイマン諸島籍契約型外国投資信託/
追加型(豪ドル建て)

交付運用報告書

作成対象期間 第6期

(2015年3月1日～2016年2月29日)

その他の記載事項

運用報告書(全体版)は代行協会のウェブサイト(<http://www.sc.mufg.jp/>)の投資信託情報ページにて電磁的方法により提供しております。

ファンドの運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社までお問い合わせください。

管理会社

**ルクセンブルク三菱UFJ
インベスターサービス銀行S.A.**

(旧名称:ミツビシUFJグローバルカस्टディ・エス・エイ)

代行協会員

三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。
さて、UBS 豪ドル・ボンド・インカム(以下「ファンド」といいます。)は、このたび、第6期の決算を行いました。

ファンドの投資目的は、中長期的に安定したインカム・ゲイン(利子収入等)およびキャピタル・ゲイン(売買益等)の獲得をめざすことです。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

<クラスA受益証券>

第6期末	
1口当たり純資産価格	10.29豪ドル
純資産総額	14,700千豪ドル
第6期	
騰落率	1.09%
1口当たり分配金合計額	0.360豪ドル

(注1)騰落率は、税引前の分配金を分配時に再投資したものとみなして計算しています。以下同じです。

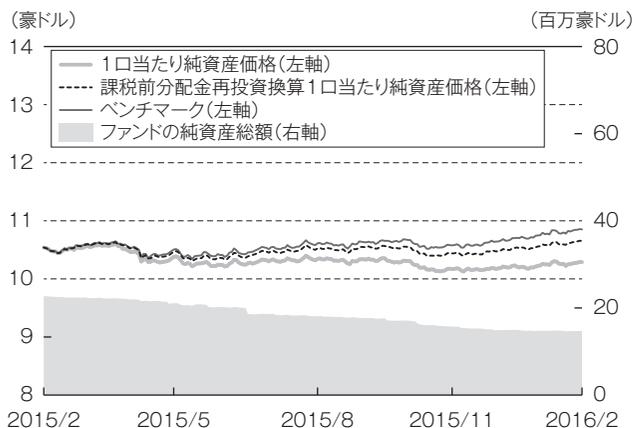
(注2)1口当たり分配金合計額は、税引前の1口当たり分配金の合計額を記載しています。以下同じです。

(注3)純資産総額は、ファンドの純資産総額です。

《運用経過》

【当期の1口当たり純資産価格等の推移について】

クラスA受益証券



第5期末の 1口当たり純資産価格	10.54豪ドル
第6期末の 1口当たり純資産価格	10.29豪ドル
第6期中の 1口当たり分配金合計額	0.360豪ドル
騰落率	1.09%

■1口当たり純資産価格の主な変動要因
当期は、期を通じて豪州債券価格が上昇(金利は低下)したことが純資産価格の上昇に寄与しました。

*課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格は、税引前の分配金を分配時にファンドへ再投資したとみなして算出したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。以下同じです。

*課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格およびベンチマークは、第5期末の1口当たり純資産価格を起点として計算しています。

*グラフ中の純資産総額は、ファンドの純資産総額を表示しています。

*ファンドは、ブルームバークオーストラリア債券(総合)インデックス(Bloomberg AusBond Composite0+ Yr Index)をベンチマークとしますが、ファンドの受益証券1口当たり純資産価格は、必ずしもベンチマークに関連して推移するものではなく、ファンドの騰落率がベンチマークの騰落率と関連することは保証されません。以下同じです。

■ベンチマークについて

ブルームバークオーストラリア債券(総合)インデックスは、オーストラリアの債券市場を全体的に反映する指数として広く使用されています。

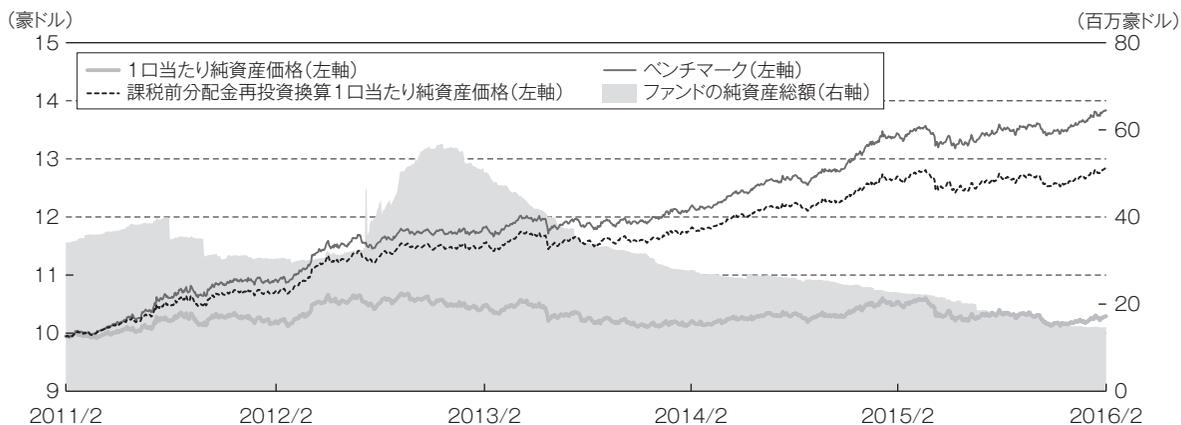
【費用の明細】

項 目		項目の概要
運用管理費用		クラスA受益証券の純資産総額の年率 1.185% (ただし、最低年間報酬が適用される場合があります。)
内 訳	管理報酬(副管理報酬を含みます。)、 保管報酬および 管理事務代行報酬	合計でクラスA受益証券の純資産総額の年率0.10%(四半期毎に後払い) 管理報酬は、信託証書に定める管理会社としての業務の対価として、管理会社に支払われます。保管報酬は、信託証書に定める保管会社としての業務の対価として、保管会社に支払われます。管理事務代行報酬は、信託証書に定める管理事務代行会社としての業務の対価として、管理事務代行会社に支払われます。
	受託報酬	クラスA受益証券の純資産総額の年率0.01%(四半期毎に後払い) ただし、ファンドに関する最低年間受託報酬を10,000米ドルとします。 受託報酬は、信託証書に定める受託会社としての業務の対価として、受託会社に支払われます。
	投資運用報酬	クラスA受益証券の純資産総額の年率0.475%(四半期毎に後払い) 投資運用報酬は、関連するファンドのポートフォリオの投資運用、資産の投資および再投資の管理業務等の対価として、投資運用会社に支払われます。
	販売報酬	クラスA受益証券の純資産総額の年率0.50%(四半期毎に後払い) 販売報酬は、投資者からの申込みまたは買戻請求を管理会社に取り次ぐ等の業務の対価として、販売会社に支払われます。
	代行協会員報酬	クラスA受益証券の純資産総額の年率0.10%(四半期毎に後払い) 代行協会員報酬は、ファンド証券の純資産価格の公表を行い、またファンド証券に関する目論見書、決算報告書その他の書類を販売会社に交付する等の業務の対価として、代行協会員に支払われます。
その他の費用(当期)		1.15% 副保管報酬、専門家報酬、CIMA関連年次費用、先物手数料、設立費用等

(注)各報酬については、目論見書に定められている料率を記しています。「その他の費用(当期)」には運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれます。便宜上、当期のその他の費用の金額をファンドの当期末の純資産総額で除して100を乗じた比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。

【最近5年間の1口当たり純資産価格等の推移について】

クラスA受益証券



	第1期末 (2011年 2月末日)	第2期末 (2012年 2月末日)	第3期末 (2013年 2月末日)	第4期末 (2014年 2月末日)	第5期末 (2015年 2月末日)	第6期末 (2016年 2月末日)
1口当たり純資産価格 (豪ドル)	9.95	10.21	10.47	10.19	10.54	10.29
1口当たり分配金合計額 (豪ドル)	—	0.504	0.504	0.504	0.408	0.360
騰落率 (%)	—	7.81	7.68	2.22	7.58	1.09
ベンチマーク騰落率 (%)	—	9.81	8.18	3.07	10.30	2.97
純資産総額 (千豪ドル)	34,131	30,557	50,165	27,808	22,707	14,700

(注1) 課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格およびベンチマークは、第1期末の1口当たり純資産価格を起点として計算しています。

(注2) グラフ中の純資産総額は、ファンドの純資産総額を表示しています。

【投資環境について】

当期の豪州債券価格は上昇(金利は低下)しました。

期初は、中国経済への懸念、資源価格の下落、米国の早期利上げ観測の後退、豪州中央銀行(RBA)による利下げ観測などから金利が低下基調となり、豪州債券市場は上昇しました。その後は、豪州の良好な雇用統計、消費者物価指数(CPI)が市場予想を上回ったことなどが豪州債券利回りの上昇要因となり豪州債券市場は下落しました。期の半ばにかけては、ギリシャの債務問題についての懸念や豪州の主要輸出品である鉄鉱石の価格が下落したこと、RBAの追加利下げに関する示唆、8月の中国人民元切り下げ、資源価格の下落などから豪州債券価格は上昇を続ける展開となりました。期の後半に入ると、米国の利上げ見送りや中国経済への懸念の高まり、豪州の利下げ観測が高まったことなどを背景として、豪州債券価格は引き続き上昇しました。11月以降は、米国で利上げが行われる見通しが高まったこと、豪州で失業率の低下などが確認され利下げ観測が後退したことなどを背景として、豪州債券価格は一時下落しましたが、期末にかけては、資源価格の続落、中国の景気見通し悪化懸念が増大したこと、豪州で雇用者数の減少幅拡大が確認されたことなどを背景として豪州債券価格は再び上昇し、前期末比で債券価格が上昇して期を終える展開となりました。

【ポートフォリオについて】

2015年3月1日～2015年3月31日

ファンドは、デュレーションをベンチマークに対しニュートラルとし、イールドカーブの若干の平坦化を見込んだポジションを取りましたが、両戦略ともリターンに対する寄与は概ねフラットとなりました。一方、個別銘柄選択がプラス寄与しました。

2015年4月1日～2015年6月30日

ファンドは、デュレーションをベンチマークに対してニュートラルに維持しました。イールドカーブ戦略では、平坦化を見込んだポジションを取りましたが、5から6月は世界的に金利が急上昇し、イールドカーブが傾斜化したことから、当四半期のイールドカーブ戦略はマイナス寄与となりました。一方、6月後半の国際機関債のスプレッドの拡大を受け、国際機関債をアンダーウエイトとしたファンドの戦略はリターンに寄与しました。

2015年7月1日～2015年9月30日

当四半期のデュレーション戦略については、7月から8月は、ベンチマークに対してニュートラルを維持した後、9月に入り短期化しました。9月の米連邦公開市場委員会(FOMC)の開催が近づいたこと、豪州の消費者信頼感および企業信頼感が首相の交代により上昇することを織り込んで、豪州国債の短期債利回りが上昇したため、当期のデュレーション戦略はプラス寄与となりました。イールドカーブ戦略については、当期はイールドカーブが平坦化したことから、平坦化を見込んだポジションを維持したことがプラス寄与となりました。また、銘柄選択もプラスとなりました。

2015年10月1日から2015年12月31日

当四半期のデュレーション戦略については、10月から11月中旬までは、ベンチマークに対してニュートラルとし、11月後半～12月は、デュレーションを長期化しました。当期のデュレーション戦略はプラス寄与となりました。イールドカーブ戦略については平坦化を見込んだポジションを維持しました。当期は長期債のパフォーマンスが短期債を上回ったことから、イールドカーブ戦略はプラス寄与となりました。

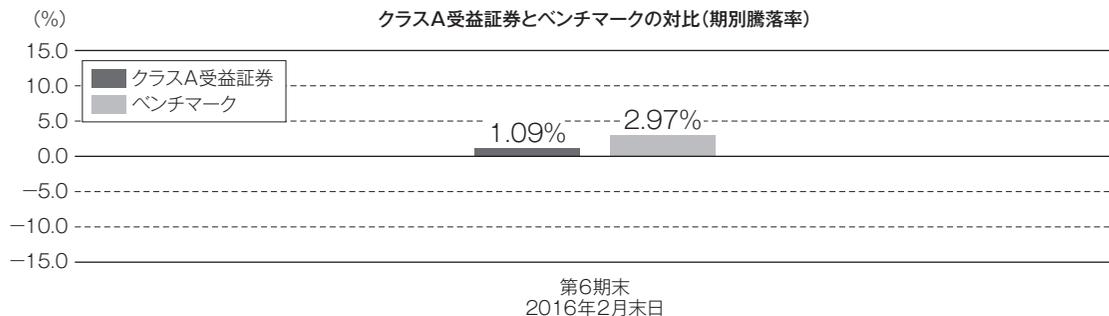
2016年1月1日から2016年1月31日

デュレーション戦略については、長期化した水準からスタートし、月の後半に長期化幅を拡大しました。このデュレーションを長期化したポジションが、リターンにプラス寄与しました。また、長期債のパフォーマンスが短期債を上回ったことから、イールドカーブの平坦化を見込んだポジションもプラス寄与となりました。

2016年2月1日から2016年2月29日

当該月は、調整を加えながらもデュレーションの長期化を維持しました。デュレーション戦略は、概ねプラス寄与となりました。また、長期債のパフォーマンスが短期債を上回ったことから、イールドカーブの平坦化を見込んだポジションもプラス寄与となりました。銘柄選択もプラス寄与となりました。

【ベンチマークとの差異】



クラスA受益証券とベンチマークの騰落率の差異の状況および要因について

当期中のクラスA受益証券の騰落率は1.09%となり、ベンチマークの2.97%を下回りました。

当期を通じてイールドカーブの平坦化を見込んだポジションを維持したことは概ねパフォーマンスにプラスとなりました。また、個別銘柄選択はプラス要因となりました。一方で、2015年5月から6月に世界的に金利が急上昇した局面において、イールドカーブを平坦化していた戦略はマイナスとなりました。また、管理運営費用がファンドの基準価格から差し引かれたことも、ベンチマーク対比ではマイナスとなりました。

【分配金について】

当期(2015年3月1日～2016年2月29日)の1口当たり分配金(税引前)はそれぞれ下表のとおりです。なお、下表の「分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額」は、当該分配落日における1口当たり分配金額と比較する目的で、便宜上算出しているものです。

<クラスA受益証券>

(金額: 豪ドル)

分配落日	1口当たり純資産価格	1口当たり分配金額 (対1口当たり純資産価格比率 ^(注1))	分配金を含む1口当たり 純資産価格の変動額 ^(注2)
2015年3月18日	10.50	0.030 (0.28%)	0.05
2015年4月20日	10.52	0.030 (0.28%)	0.05
2015年5月18日	10.31	0.030 (0.29%)	-0.18
2015年6月18日	10.28	0.030 (0.29%)	0.00
2015年7月21日	10.26	0.030 (0.29%)	0.01
2015年8月18日	10.30	0.030 (0.29%)	0.07
2015年9月18日	10.26	0.030 (0.29%)	-0.01
2015年10月19日	10.32	0.030 (0.29%)	0.09
2015年11月18日	10.13	0.030 (0.30%)	-0.16
2015年12月18日	10.16	0.030 (0.29%)	0.06
2016年1月18日	10.21	0.030 (0.29%)	0.08
2016年2月18日	10.22	0.030 (0.29%)	0.04

(注1) 「対1口当たり純資産価格比率」とは、以下の計算式により算出される値であり、ファンドの収益率とは異なる点にご留意ください。

対1口当たり純資産価格比率(%) = $100 \times a / b$

a = 当該分配落日における1口当たり分配金額

b = 当該分配落日における1口当たり純資産価格 + 当該分配落日における1口当たり分配金額

(注2) 「分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額」とは、以下の計算式により算出されます。

分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額 = $b - c$

b = 当該分配落日における1口当たり純資産価格 + 当該分配落日における1口当たり分配金額

c = 当該分配落日の直前の分配落日における1口当たり純資産価格

(注3) 2015年3月18日の直前の分配落日(2015年2月18日)における1口当たり純資産価格は、10.48豪ドルでした。

《今後の運用方針》

今後も、投資方針に従って運用を行い、中長期的に安定したインカム・ゲイン(利子収入等)およびキャピタル・ゲイン(売買益等)の獲得を目指します。

《お知らせ》

管理会社の社名変更について

平成28年5月1日付で、ミツビシUFJグローバルカस्टディ・エス・エイ(Mitsubishi UFJ Global Custody S.A.)はその名称をルクセンブルク三菱UFJインベスターサービス銀行S.A.(Mitsubishi UFJ Investor Services & Banking (Luxembourg) S.A.)に変更しました。

副管理会社の社名変更について

平成28年5月1日付で、エムユージーシー・ルックス・マネジメント・エス・エイ(MUGC Lux Management S.A.)はその名称をMUFGRルスマネジメントカンパニーS.A.(MUFG Lux Management Company S.A.)に変更しました。

《ファンドの概要》

ファンド形態	ケイマン諸島籍契約型外国投資信託
信託期間	ファンドは、平成22年8月4日より運用を開始し、管理会社が受託会社と協議の上、その裁量により存続期間の延長を決定しない限り、平成32年7月31日に終了します。ただし、有価証券報告書に定めるいずれかの方法により当該日までに終了する場合を除きます。
運用方針	ファンドの投資目的は、中長期的に安定したインカム・ゲイン(利子収入等)およびキャピタル・ゲイン(売買益等)の獲得をめざすことにあります。
主要投資対象	主として、豪ドル建ての投資適格の公社債(国債、政府機関債、準政府債(州政府債)、国際機関債、社債、ABS(アセット・バック証券)およびMBS(モーゲージ証券)を含みます。)に分散投資を行います。
ファンドの運用方法	管理会社と投資運用およびリスク・マネジメント委託契約を締結している副管理会社は、改訂・再録基本投資運用契約を締結し、投資運用会社にファンドの投資運用を委託しています。 債券運用の戦略策定は、ファンダメンタルズに基づく債券価格のバリュエーションとそれに影響を及ぼすマクロ経済動向の分析、また、ポートフォリオ・マネジャーおよびクレジット・アナリストによる業種別ファンダメンタルズ分析から成るトップダウン・アプローチと、クレジット・アナリストによる個別銘柄リサーチのボトムアップ・アプローチの融合です。これらの情報を基にポートフォリオ・マネジャーが定性判断を加えて、戦略を策定します。定量分析、クレジット・リサーチ、ポートフォリオ・マネジャーの定性判断を組み合わせたチーム・アプローチをとっていますが、オーストラリア債券チーム・ヘッドが債券戦略にわたる全責任を負っています。
主な投資制限	<ul style="list-style-type: none"> ● ファンドについて空売りされる有価証券の時価総額は、ファンドの純資産総額を超えないものとします。 ● 借入れは、原則として、一時的なものに限り、また借入金の残高の総額がファンドの純資産総額の10%を超えない場合に限り、行うことができます。 ● ファンドは、原則として、流動性に欠ける資産に対しその純資産総額の15%を超えて投資を行いません。 ● 同一発行体の有価証券へのファンドの投資総額が、その取得時においてファンドの純資産総額の10%を超える場合、原則として、当該発行体の発行する有価証券に投資することができません。 ● 原則として、同一発行体の発行済債務証券の10%を超えてファンドの資産を投資することができません。 ● デリバティブへの投資(買い持ちと売り持ちのネット合計)は、ファンドの純資産総額の最大50%までに制限されます。
分配方針	クラスA受益証券につき、管理会社は、その裁量により、投資純益、実現および未実現純キャピタル・ゲインならびに分配可能資産から、毎月18日(または、当該日が営業日でない場合は翌営業日)に分配を宣言することができます。

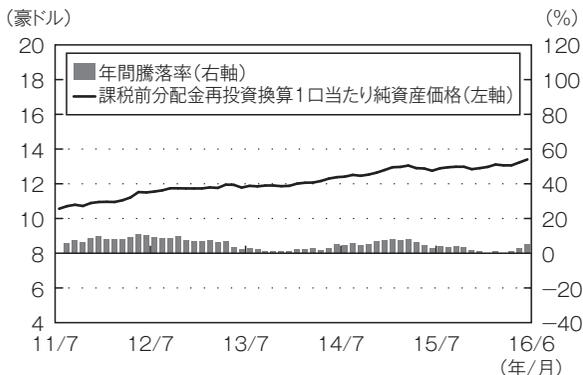
《参考情報》

【ファンドと代表的な資産クラスとの年間騰落率の比較】

ファンドの課税前分配金再投資換算1口当たり 純資産価格・年間騰落率の推移

2011年7月～2016年6月の5年間におけるファンドの課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格(各月末時点)と、年間騰落率(各月末時点)の推移を示したものです(なお、ファンドは2010年8月4日に運用を開始しました。)

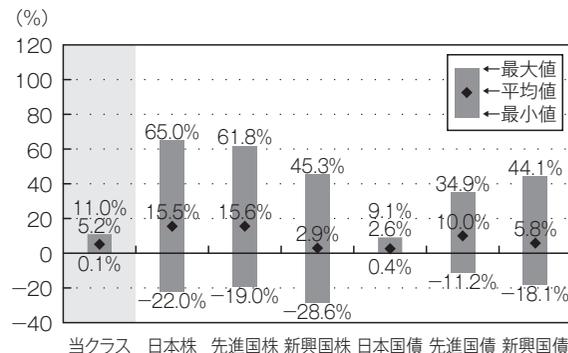
クラスA受益証券



ファンドと代表的な資産クラスとの年間騰落率の比較

このグラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、左のグラフと同じ期間における年間騰落率(各月末時点)の平均と振れ幅を、ファンドと代表的な資産クラスとの間で比較したものです。

クラスA受益証券



出所: Bloomberg L.P.および指数提供会社のデータを基に森・濱田松本法律事務所が作成

- ※課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格は、税引前の分配金を分配時にファンドへ再投資したとみなして算出したものです。
- ※ファンドの年間騰落率(各月末時点)は、各月末とその1年前における課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格を対比して、その騰落率を算出したものです。ただし、設定から1年未満の時点では算出されません。
- ※代表的な資産クラスの年間騰落率(各月末時点)は、各月末とその1年前における下記の指数の値を対比して、その騰落率を算出したものです。
- ※ファンドと代表的な資産クラスとの年間騰落率の比較は、上記の5年間の各月末時点における年間騰落率を用いて、それらの平均・最大・最小をグラフにして比較したものです。
- ※ファンドの課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格および年間騰落率は、実際の1口当たり純資産価格およびそれに基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。
- ※ファンドの年間騰落率は、豪ドル建てで計算されており、円貨に換算されておりません。したがって、円貨に換算した場合、上記とは異なる騰落率となります。
- ※ファンドは代表的な資産クラスの全てに投資するものではありません。

●各資産クラスの指数

- 日本株・・・TOPIX(配当込み)
- 先進国株・・・ラッセル先進国(除く日本)大型株インデックス
- 新興国株・・・S&P新興国総合指数
- 日本国債・・・ブルームバーグ/EFFAS債券・インデックス・ジャパン・ガバメント・オール(1年超)
- 先進国債・・・シティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)
- 新興国債・・・シティ新興国市場国債インデックス(円ベース)

(注)ラッセル先進国(除く日本)大型株インデックスおよびS&P新興国総合指数は、Bloomberg L.P.で円換算しています。

TOPIX(東証株価指数)は、株式会社東京証券取引所(株東京証券取引所)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、(株東京証券取引所)が有しています。なお、ファンドは、(株東京証券取引所)により提供、保証または販売されるものではなく、(株東京証券取引所)は、ファンドの発行または売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

ラッセル・インデックスに関連する登録商標、トレードマーク、サービスマークおよび著作権等の知的財産権、指数値の算出、利用その他一切の権利は、ラッセル・インベストメントに帰属します。インデックスは資産運用管理の対象とはなりません。またインデックス自体は直接的に投資の対象となるものではありません。

シティ世界国債インデックスおよびシティ新興国市場国債インデックスはCitigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスです。

《ファンドデータ》

【ファンドの組入資産の内容】

(第6期末現在)

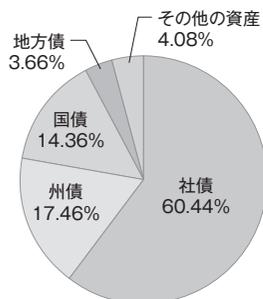
● 組入上位資産

(組入銘柄数:33銘柄)

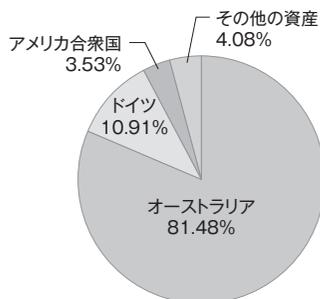
上位10銘柄	組入比率(%)
EXPORT FINANCE & INSURANCE CORP	3.93
WESTPAC BANKING CORP	3.93
LANDWIRTSCHAFTLICHE RENTENBANK	3.78
QPH FINANCE CO PTY LTD	3.70
AUSTRALIAN CAPITAL TERRITORY	3.66
KFW	3.66
ALE DIRECT PROPERTY TRUST	3.59
NATIONAL WEALTH MANAGEMENT HOLDINGS LTD	3.53
METROPOLITAN LIFE GLOBAL FUNDING I	3.53
UNITED ENERGY DISTRIBUTION PTY LTD	3.50

(注) 組入比率は純資産総額に対する各組入資産の評価額の割合です。組入比率は、組入資産の評価額の端数処理方法の違いにより、運用報告書(全体版)に記載されている財務書類中の比率とは異なる場合があります。以下、円グラフも同じです。

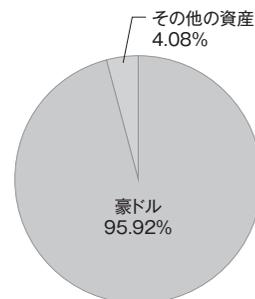
● 資産別配分



● 国別配分



● 通貨別配分



(注1) 上記円グラフには、四捨五入した比率を記載しているため、全資産の比率の合計が100.00%にならない場合があります。

(注2) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

【純資産等】

<クラスA受益証券>

項	目	第6期末
純	資産	総額
		14,699,964.56豪ドル
発	行	済
		口
		数
		377,173口
1	口	当
		た
		り
		純
		資
		産
		価
		格
		10.29豪ドル

(注) 純資産総額は、ファンドの純資産総額です。

第6期		
販売口数	買戻口数	発行済口数
0	307,202	377,173
(0)	(307,202)	(377,173)

(注) () の数は本邦内における販売・買戻しおよび発行済口数です。